

# 私たちの今とこれから

農林水産業の「成長産業化」に向け、  
新たな課題の解決に取り組みます。

農 林 水 産 業



消費者・産業界のニーズ

農林中央金庫

農林水産業と産業界の  
架け橋として

ニーズに応える農林水産物の供給

## 今、求められる“架け橋”としての役割

この40年の間に消費者のニーズは大きく変化してきました。現在も外食や中食など「食の外部化」が進んでいます。生鮮食品の買い手は、自宅で調理する消費者から外食・加工食品企業へと大きく移ってきました。これらの企業は早くから消費者の声に答えてきており、年間を通して品質・量・価格の安定した国産品の供給を求めています。こうした企業のニーズに対応し、消費者の求める安心・安全な国産の農林水産物を届けていくことが、農林水産業の成長産業化につながると考えています。

そこで私たちは、全国の農林水産業の生産者との深い

つながりと、日本を代表する農林水産業関連の企業との長年の取引関係という強みを基盤として、生産者と企業の両者を結び付けるコーディネーターとしての役割を發揮していきます。この目標の実現のため、単に1次産業と2次・3次産業に橋を“渡す”のではなく、自らが橋を“架ける”思いで取り組んでいます。需要者の立場で考える「マーケットイン」の発想から生まれる多様なニーズを生産者へつなぎ、結果を出すために必要なソリューションを提供していく。こうした取組みが今、私たちに求められています。

日本の農林水産業、特に農業が主要産業として成長していくために、重要なポイントが3つあると私たちは考えています。

1点目は「これからの農業生産をけん引していく大規模な農家・農業法人における経営力の強化」、  
2点目は「規模を問わず、さまざまな農家が担っている『地域・集落・生産基盤の守り手』機能の維持」、  
そして3点目は「消費者のニーズに、より一層、応える生産」です。  
こうしたポイントに対応していくことが農林水産業の成長産業化のカギだと、私たちは考えています。

### 農林水産業関連の産業界

- 資材メーカー ●商社 ●物流企業
- 食品メーカー ●卸・小売企業
- 外食・中食企業



### 消費者



## これからの担い手と生産基盤の守り手をサポート

高齢化の進展などによる農業の担い手の減少が続くなか、経営規模の拡大や法人化への動きが本格化しています。こうした農業の流れに対して私たちは、これからの農業生産をけん引していく大規模な農家・農業法人からより一層、頼りにされる金融機関となることを目指しています。

原点強化の思いを抱き、担い手の成長ステージに応じた経営課題に現場で直接、「ハンズオン」で向き合う。融資だけにとどまることなく、経営力の強化を実現する多様なソリューションを提供し、担い手の長期的な成

長を支援していきます。

一方、農業経営体の9割は規模の小さな家族農家が占めています。山地が多く地域ごとにさまざまな特性を持つ日本では、規模を問わず多様な担い手が、農業生産とともに、水路や農地といった生産基盤や集落の維持、国土・環境保全といった多面的な機能までを果たしており、こうした役割が発揮され続けることこそ、農業の持続的な発展の前提になっていると考えています。

私たちは、こうした幅広い農家をサポートし、農業が総体として成長産業となることを目指しています。